



会 議 録

会議の名称	行田市在宅医療・介護連携推進協議会 研修部会	
開催日時	平成30年10月11日(木) 開会：18時30分・閉会：19時15分	
開催場所	行田市産業文化会館 管理棟 第2A会議室	
出席者(委員)氏名	阿久津彰良、笠原利子、島田 喬、小林雅世、馬渡夏美、本木瑞穂、澤田千尋、鳥塚智子、加藤里美、川島 治、溝上俊亮	
欠席者(委員)氏名	堀内 規、古田和也、鈴木武則、原 寛和、小林永治、嶋田由紀子	
事務局	行田市高齢者福祉課地域包括ケア担当 行田市機能強化型地域包括支援センター緑風苑	
会議内容	第2回摂食嚥下研修について ふらっと(研修)関連の来年度計画について 認知症研修について(多職種合同意見交換会) その他	
会議資料	(資料名・概要等) 議題	
その他必要事項		
会議録の確定	確定年月日	主宰者記名押印
	30年11月6日	阿久津彰良  笠原利子 

発 言 者	会議の経過（議題・発言内容・結論等）
阿久津委員	<p>[開会]</p> <p>では定刻になりましたので始めたいと思います。会長からお願いします。</p>
川島会長	<p>お知らせがあります。毎年各団体さんに問い合わせいただいている健康フォーラムを今年は鋳山親方をお呼びして「健康フォーラム行田場所」という名前で12月9日に行います。是非ご参加お願いします。その時に前回も行いましたが、参加の市民500名にアンケートを取ります。その次にある、人生の最期をどこで迎えたいか、エンディングノートについて知っていますか、みとりを進めるために行政に力を入れて欲しい事、みとりが普及するにはどのような事が必要かなど。作業部会の皆様にも聞いてみたい事とか、専門職の研修に使えればと思っています。市民の方がどういう事を求めているか、この様な研究をしたいなど、アンケートを取って知りたい項目があれば、先に送っていただければ作成します。以上です。</p>
阿久津委員	<p>有難うございます。では議題に入ります。大きく3つとその他があれば挙げて頂きたいと思います。1番、第2回摂食嚥下研修会について、市と最終的な打ち合わせを済ませ、案内文書及びポスターが仕上がりました。手元に配布されていると思います。前回決められた通りです。追加項目はないですか。</p>
澤田委員	<p>はい、大丈夫です。</p>
阿久津委員	<p>既に募集が始まっています。今回は介護系の方に多く来ていただきたいです。48名なので急いで応募して下さい。2つ目の予算については年間計画を立てないと予算組みができません。計画の段階で市からの要望もあり、③多職種の顔の見える関係構築を主体に進めてきました。協議会で市から①、②についても</p>

検討してもらえないかと要望があります。それが決まるとこの様な計画でという形になりどの費用が必要かわかります。今年度は、講師料だけで年間計画を立てていて、年間14万円の予算で動いています。それは講師料だけで、例えば今回の様に食材が必要であれば別の費用を計上しないといけません。計画が決まらなければ予算も決まりません。来年度予算の要求する時期にきているので、今回整理を含めて来年度計画と予算を考えたいと思います。①、②の多職種が連携するための研修、それと医療・介護側が相互理解するための研修です。まず皆さんどう考えるか投げかけているので、いくつかお聞きしたいと思います。検討事項という所です。市の解釈等要望等について委員からのご意見、例えば、1年間③をやってきてもう少し知識を入れないと次のステップに行けないのではないとか、③は一通りやったので、今度は①、②を考えていきましょうとか、一応認知症に関しては市が多職種合同意見交換会で①、②を加味した状態で行う形になります。どうでしょうか。

澤田委員

本来は満遍なく出来るのが一番いいと思いますが、③と①が繋がりやすいイメージがあるので、まず関係構築が出来ないと連携が難しいと思います。③と①がもう少し一緒に加味された内容ができればより良いが、それが具体的にはまだ難しいと思います。

阿久津委員

読み替えとして書いたのですが、多職種が連携することができるよう、介護系・医療系と2つに分けたとして、その多職種がスムーズに連携するためにどうしたら良いのかを考える研修を進めていく。顔の見える関係ができないと生まれてこない。具体的な方策・内容に関しては今の所思いつかない。介護系はどうですか。

本木委員

それぞれの仕事の内容というか、どの様な利用者さんに対応

	<p>しているか相互の理解が大切だと思いました。例えばヘルパーが入っているお宅に訪看さんが入って、訪看さんがケアマネにヘルパーさんにもやってもらいたいと言われても、生活支援で入っているのと身体介護で入っているのではやり方がまったく違って、訪看さんは大体、身体関係で来るので、できないですと一度お断りした事があったのです。</p>
阿久津委員	<p>制度が違うとできないですよ？前は出来たのですけどね。</p>
本木委員	<p>それぞれの仕事を理解するのが必要かなという事です。</p>
阿久津委員	<p>③及び②もやってく方が良いのではという意見ですか？</p>
本木委員	<p>やり方としてはどうしたらいいのか分からない。</p>
阿久津委員	<p>どうでしょうかケアマネさん。</p>
小林委員	<p>難しいですね。まとめるのは難しいです。</p>
阿久津委員	<p>じゃあ飛ばして。</p>
馬渡委員	<p>①と②のどこが微妙で、区別が出来ないのが自分の中では①の多職種が連携するための研修という方法論の事を言っているのか。②はお互いのコミュニケーションについての研修かと考えたのですが、今度認知症研修の時に薬剤師さんやその職種の立場から相互して深めていく研修会をしますよね。それら1個1個の積み重ねが全部ここにある①・②・③に入ってくると思っているのですけれど、それとは違うのですか？</p>
阿久津委員	<p>多分今言ったのはそうだと思います。</p>

馬渡委員	<p>そういうことで積み重ねていけば①も②も関わっていくのかな？①だけの研修、②だけの研修と区別が付けられないと思っています。</p>
阿久津委員	<p>箇条書きに書くところの形という事ですよ。実際は①の意味するのはどういう関わりを持って高齢者に当たっていくか、対象者に当たっていくかを皆で把握しましょう。制度の違いを理解し合しましょう。</p>
馬渡委員	<p>制度的な所はテーマ毎にヘルパーさんの仕事、こういう事で介護保険の身体介護と生活支援が分かれています、お互いの紹介、自分の職域の紹介みたいな感じでインフォメーションとか交流の中で話していけばいいのかと思ったのです。前回の合同意見交換会で、松戸市の講師が相手の職域を尊重する事が地域の多職種の連携で一番大事だって話が頭に残っています。地域で関わる在宅の職種の人達がどんな仕事をしているか、具体的に講師料も予算が組めるのであれば、多職種の連携の方法をテーマに講師を呼んで聞くのも研修になるのかなと思いました。その為はその講師料を予算に組んで、①に対しても多職種連携に関する基礎知識、その中でヘルパーさん、看護師はこれ、ケアマネジャーはこういう活動をしているとか、少し紹介してもらえれば私達もそういう風に動いていけばいいのだってイメージできるのかなと思いました。</p>
阿久津委員	<p>要は連携をやっていくのもいいじゃないかって事ですね。</p>
鳥塚委員	<p>今、おっしゃったように①・②・③と分けているけれど根本的には同じ事、同じ目標としている事に非常に同感。</p>
阿久津委員	<p>顔の見える環境を作って、皆で同じ仕事一人の対象者に対して皆で見えていくよ、それを理解しあうよ。</p>

鳥塚委員	<p>本木さんがおっしゃったように1人の対象者に対して多職種がどんな風に関わっていくか、モデルではないですがケースを一つ持ってきて、そこで看護師さんがこう、薬剤師さんがこうという様な多職種連携のモデルケースみたいな勉強会でもいいのかなと思う。具体策としてどうなのか聞かれた時に認知症も行うケース検討、多職種連携に対してのモデルケースっていうのも勉強の一つなのかなと思いました。</p>
阿久津委員	<p>来年度は特段別に講師料のみでもいいかな様な考えでいいですか。どうでしょう。そこを今日決めたいと思っています。講師料で今年度も来年度も進めるかどうか、要は連携を意識した勉強会をしていく、それによって需用費は必要なくなります。</p>
馬渡委員	<p>予算的にはやっぱり一番大きいのは講師料。</p>
阿久津委員	<p>講師料を他のものに転用することはできません。</p>
馬渡委員	<p>出来ないとは思いますが、今年の今までやっている研修の中でそんなに予算は必要ですか。</p>
阿久津委員	<p>実は市が頑張っていただけで、今回は煎餅に関してはなんとか用意していただけました。</p>
澤田委員	<p>煎餅を出してもらって、その分くらいは。</p>
阿久津委員	<p>計画は載せないと、それもやるよと。</p>
澤田委員	<p>もぐもぐ会で前に話が出た時に、来年度ももし、摂食嚥下をやるなら色々なクリニックや病院から、その食形態を持ってきてもらう話しがあって、それをやるのに完全持ち込みだけでや</p>

	<p>るのか、それともムース食とかを購入してサンプルとして置くのか。</p>
阿久津委員	<p>摂食をやるかどうかとも問題になる訳ですね。</p>
馬渡委員	<p>摂食だと食材とか材料とかかなりかかりますよね？</p>
澤田委員	<p>摂食はかかると思います。</p>
阿久津委員	<p>知識として食べる事は生きるために必要、これだけはあった方がいいのかなと心配になります。入浴等は皆さんプロとしてやっていますが、食べる事に対しては知識が必要じゃないかと思っています。</p>
馬渡委員	<p>それでは来年もそれを継続してやっていく。</p>
阿久津委員	<p>やった方がいいのかと思うのは、私の個人的な意見ですけど。</p>
馬渡委員	<p>摂食を続けていくのであればそれなりの予算を</p>
澤田委員	<p>摂食は多分年一回はやった方がいいのでは</p>
阿久津委員	<p>その他に別件でやるとしたら事業費は計画しないとイケないかなと思います。私個人の意見ですが。</p>
馬渡委員	<p>例えば大まかな枠は年に一回くらい、具体的にどのくらい、どうゆうものでどのくらいお金がかかるか細かいつめまでが。</p>
阿久津委員	<p>おおざっぱでいいので</p>
鳥塚委員	<p>では今回、市が負担しなかったら実際はいくらだったのか。</p>

澤田委員	<p>そうですね。今回は紙コップの料金と忘れた人のためのスプーンの料金と煎餅の料金と、ただ前回も一人ペットボトル一本を出しています。</p>
鳥塚委員	<p>それを買ったらいくらなのか、準備したら一つ100円とか</p>
笠原委員	<p>摂食嚥下を続けていくとして、この時点で決めなきゃならないのであれば。</p>
阿久津委員	<p>大雑把でね。</p>
笠原委員	<p>もうそこはおさえておかないと。</p>
阿久津委員	<p>私個人的には食べる事は皆さんある程度の技術は必要。やはり誤嚥が一番大きい。</p>
馬渡委員	<p>不足している訳だから年一でも。</p>
阿久津委員	<p>年一でもいい。</p>
笠原委員	<p>研修は毎年変えないといけないのかと思って、では市は当初どう計画を立てていたのかと思い、30年度末の目標を見た時に多職種連携が出ていて、その研修会を意見交換の中や研修部会の中で行うのが出ていました。もぐもぐはそれを意識して作った訳ではないが、私達がワーキングの事前協議の時に、多職種を知るには今いる人達を活用して色々正しい知識を付けてもらい、顔の見える多職種の連携につながる研修の積み重ねをしていきます。研修の課題として摂食嚥下と認知症とインシュリン関係が日々関わる事なので出ていました。第1回目を振り返ったらそれが出ていて、一緒に話をしてすっきりしました。皆さん</p>

の意見の中に3つが離れているわけではないと今日も言っていたので、皆そういう風に思っていたと知ってすっきりしました。離れるものではない、私もグループワークだけの研修をしたことがあるのですが、そうすると来なくなります。皆さん専門職なので正しい知識を得たい希望のもとに来るので、何か役に立つ助言者として研修のワンポイントとして入れる人がいないと来なくなります。

馬渡委員

自分達だけだと、なんかこう指針が見えなくて

笠原委員

やはり正しい知識があることで、共通に多職種理解も生まれ、連携も生まれてきます。正しい事をやると市民に返ってくると思います。最初の段階で質の高い支援を提供する体制作りを目標として出していたので、それにつながるのかなと思いました。

馬渡委員

3年続かないと結果もでないし評価も出来ないと思います。

笠原委員

研修は3年続けないといけませんよね。

阿久津委員

それを続ける事によって、医療職が主体になりますが、介護の人がどこで迷っているか、どこが分からないかを吸収していく事が必要になってきます。どうしたらいいのか実技になる事もあると思います。それで多職種連携が出来るのではないかと、今は食べる事が生きる為に必要な事だから基礎知識を入れないと、それだけは最低限必要かなと思っています。

澤田委員

でも嚙下は、特に誰が何をやるのか分かっていない人も多いので、何故リハビリが3職種いて3職種がどう関わっているのか分からない方が多いので今回の様な形を取っているのです。

阿久津委員	<p>まとめていいですか。一つは今年度の課題の摂食、後は連携を意識した状態の研修会を今の所は具体的には決まっていますが、連携を意識した特に①、②を意識していく研修を2つ実施でいいですか。その他に合同意見交換会を市主催で行います。その様な組み立てでもいいですか。提案ですけど。そうすると食品系を扱うお金の需用費を予算として組み込まないと来年また市が困る事になってしまうので計画していいですか。では来年度の予算はこれプラス、講師料プラスあの需用費という形ですね。需用費の中身としては食料品系、およそどのくらいが必要なのか。</p>
馬渡委員	<p>講師料別にして需用費で。摂食はいくらですか。</p>
阿久津委員	<p>教えるというか、どこまで共有するか。</p>
小林委員	<p>今回、トロミも業者さんに応援お願いしました。トロミも期限があるので来年トロミ代もこちらで払うのならトロミ代はお煎餅代と違って高いから金額も変わってきます。</p>
澤田委員	<p>高いからトロミも考えて金額を出した方が良い。</p>
鳥塚委員	<p>例えばミキサー食とかレトルトになっている市販の嚥下食がどのくらいするのか。</p>
澤田委員	<p>トロミは人数分必要だと思いますがミキサー食とかムース食を購入する場合は一人一食にする必要はないので、各グループに1つとか、最低限、前に置いておくとか、前言っていた様に各事業所から持ってきてもらえばコストの面でも変わるからその辺はまた変動があると思いますけど</p>
阿久津委員	<p>おおよそ3万円くらい。</p>

事務局（春日）	金額はいいですよ。
馬渡委員	あまり沢山になると良くない、予算から出ないように。
阿久津委員	予算を組んだ時には、その事業をやらなければいけない。
馬渡委員	少ない分にはいいのでしょ。
阿久津委員	<p>ではそのような形で、今、連携のところでは何か思いつかないという意見もありましたが、介護保険を医療側が余り分かっていないのでは、例えば、病院の看護師さんや栄養士さんに介護保険の利用の手順とか、介護保険をどう使う、使わないという意味を聞いてみたけれど答えられる人がいなかったのです。だから医療保険の人は、介護保険のマネジメントによって物事が決まってくるという事を、実は分かっていなかったと思いました。医療保険は医師が指示をして、それを元に皆が動きます。でも介護保険に関しては色々な活動、状態を聞いてケアマネがマネジメントします。他に金額も計算をします。それで連携を取りながら進めていきます。終了する時も相談をして、担当者会議をして決定して終了なのか、継続なのかとなって、一緒に意見書もあって、それを元にして皆が動いている事を実は知りません。だからそれも共有だと思うのです。まず知る事が必要だと思います。</p>
馬渡委員	<p>医療系に介護職の人が参加する事はないが、介護系とか在宅系の所に医療系の施設の人を連れてくる事に、エネルギーが必要。現実的に計画を立てて動員できるか。</p>
阿久津委員	<p>一応、今年度は摂食において、医療側から介護系に伝えると言ったけれど来年は介護の仕事の内容を医療保険に伝えていき合わせて、医療保険から介護保険へという国の流れがありますよ</p>

ね。何故その介護保険にいかなくてはいけないのか、多分医療系の人で知っている人は少ないと思います。一介の国の流れ、それに対して国は予算を多く使っています。スムーズな移行にするために加算をつけています。それを知る事も勉強になるでしょう。それも連携かなと言われていています。医療側から介護系に教えること、介護系から医療系に教えることという形で進めて来年度いけたらいいのかなと考えていますけどいかがでしょう。提案ですが。この月以降の事業計画として考えたいので宿題にします。

澤田委員

どの様な内容が良いのか。

阿久津委員

どういう事をするか具体的に思いつかない、何をしたら良いか分からないのであればそれを例にしてどうでしょうか？

笠原委員

事例の中で少しやれるかもしれないですね。

阿久津委員

そうですね事例を使ってでもいいでしょうし。

小林委員

退院してくる方のパターンを

阿久津委員

劇バージョンでという話題がありました。

小林委員

実際にリアルな寸劇にして、集まるメンバーからその会場に来ている人が皆専門職なので1人ずつこうチョイスして。

阿久津委員

その場で、ですか。

本木委員

その場で。すごいね。それは数値化っていうか

阿久津委員

て話もありましたけどね。前々回かな。

小林委員	そんな感じでしたね。ありましたね。
阿久津委員	それも考えてみましたが。では来年度の計画と予算を、そういう形で組んでよろしいですか。やはり教育が必要かなと思います。次、議題3番目、認知症研修について、報告事項は書かれている通りです。一応2事例を市に提出しました。どう使うかはお任せします。出させていただいてありがとうございました。期日については如何でしょうか。市より確認です。
事務局（春日）	期日は1月31日（木）夜になります。
阿久津委員	18時半からですか？
事務局（春日）	そのくらいになると思います。
阿久津委員	募集定員はおよそ何人になります？
事務局（春日）	商工センターのホールで行う予定にしていますので、100名くらいは入るかなと思っています。
阿久津委員	駐車場は行田市役所に停めるのかな。アンケートで駐車場はどうでしたかと出てくると思う。やすらぎがいいですか商工センターがいいですかって問も入れてもらおうと思っている。
事務局（春日）	市役所っていう手段もある。行田の会場が限られています。
笠原委員	スーパーバイザーは。
阿久津委員	スーパーバイザーは、一応会長から2名の提示がありました。

事務局（春日）	会長と野口委員さんにお願ひしました。
阿久津委員	詳細については市が考えていく形になっています。
事務局（春日）	はい、講師の先生達と相談しながら考えていきます。
阿久津委員	私も市がどう進めるか楽しみにしているので、①、②について良く見ていきたいと思ひます。
事務局（春日）	イメージ的には今までの合同意見交換会の去年やった以来のフラットな会場で、グループワークというイメージ
阿久津委員	その他、3月の研修は何をするかで、3月は空白になっています。入退院の話が出ていましたよね、劇バージョン。石井クリニックさんから提案がありました。課題として上がってきているのですが、診療報酬と何でしたっけ？
事務局（春日）	石井クリニックさんの方から通所リハビリテーションの関係で市に要望がありまして診療報酬がリハビリテーションとか150日とか180日とか疾患で決まっています。それを過ぎると65歳以上の方は大抵、介護保険の方に移行しながらリハビリテーションを受けていくのですが、患者さんの中で石井クリニックさんは医療でリハビリをして介護でもリハビリをして、患者さんの中には、介護保険でリハビリテーションへ通いながら医療でも受けたいとご希望のある方が出てくるそうなのです。医療は一旦終わっちゃうと終わるので、同時に介護保険と医療保険受ける事が出来ません。それを医療職が説明できない、何故そうなるのかを患者さん一人一人に窓口で相談された時に説明が難しいので、制度の説明を市からしてもらえないかと要望がありました。市としても、医療保険の制度と介護保険の制度を両方理解することが、本当に必要になってくると思ひています。

	いわゆる、連携事業の中の研修として合致しています。
馬渡委員	それは訪問介護も一緒
本木委員	そうですね。
阿久津委員	それは国の流れを分かっているからそうなるのですよね。
事務局（春日）	携わっている職種が余り分かっていない可能性もあるのでその研修を是非やって、市としてもやりたいと思っているのですが、行政はご存知の通り縦割りの仕事をしていますので、市として介護保険制度はある程度分かるのですが、診療報酬は国が管理してしまっていて、診療報酬が分かるのが厚生労働省なのです。その制度設計を考えたところでないと講師は難しいらしく、県が主催した研修で、埼玉県立大の先生が診療報酬と介護報酬の両方の話をしていただける先生の研修を受けてきたので、その先生に講師をお願いして、3月にそれに関連する研修を市の方でさせてもらえないかと思っています。
阿久津委員	多職種合同意見交換会と同じように、市で3月分をやってくれるって事でいいですかね。どうでしょうか。
一同	いいと思います。
事務局（春日）	その先生が話していた主旨が、入退院における診療報酬側の意義と介護報酬側の意義をお話ししていただいて、今入退院調整の資料が出来上がっているところですので、それを混ぜ込んで更にお話をさせてもらえればなと思っています。
阿久津委員	そうすると医療と介護の方、介護の方は医療がよく分かるでしょうし、医療の方は介護の事が良く分かると思います。その制

	<p>度の違いですよね。あと国の流れ、国の方針も分かってくるといいのかもしれませんが。</p>
事務局（春日）	<p>3月に企画します。</p>
阿久津委員	<p>まとめに来年度は知識レベルを継続して、それと連携を意識した形で、相互を理解するようなことをしていく、詳細については皆さんの宿題です。どういう事をやりたいか、連携を意識して作っていただきます。以上です。いいですか。時間になりました。次回は11月ですね、15日は研修なのでお休みしますか。12月もお休みにしますか。12月はどこの部会もやらないのでは。</p>
事務局（春日）	<p>12月は休会になっています。</p>
阿久津委員	<p>では2回休会。宿題があるから意見交換会の前にやりましょう、次回は1月です。1月10日までに宿題を整理してください。その前にメールで宿題提出をお願いします。</p>
馬渡委員	<p>宿題ばかり、研修だから仕方ないですね。</p>
阿久津委員	<p>では以上です。お疲れ様でした。</p>
	<p>[閉会]</p>